



日高軽種馬農業協同組合(古川雅且代表理事組合長)主催のサラブレッド1歳馬競り市『サマーセール2022』が8月22日から26日にかけて北海道市場(静内神森)で開かれ、売上総額が70億円を超え過去最高額を更新しました。

また、静内農業高校の生徒が育てた『マドリガルスコア2021』も上場され、同校歴代2番目の金額となる700万円で落札されました。

売上総額過去最高のサマーセール 静内農高の生産馬も高値で落札

NEWS FLASH

北海道日本ハムファイターズ スポーツキャラバン

㈱ファイターズスポーツ&エンターテイメント主催の『ファイターズスポーツキャラバン』新ひだか町が8月19日から21日にかけて総合市民センターなどで開かれ、3日間で延べ約500人が来場しました。

イベントでは、ファイターズ戦のパブリックビューイングや、元プロ野球選手による野球教室、ファイターズガールダンス教室のほか、ファイターズスペシャルアドバイザーの田中賢介氏による講演なども行われ、参加者は地元球団との親睦を深めるとともに、スポーツの楽しさを学びました。



エゾヤマザクラ70本を寄贈・植樹 出口組に善行表彰を贈呈

町は、二十間道路桜並木にエゾヤマザクラ70本を寄贈・植樹した(株)出口組(出口直沖代表取締役)に、8月23日、善行表彰を贈りました。

同社は、平成25年から創業70周年を迎える令和5年までの間で、毎年7本ずつサクラの成木を寄贈・植樹する計画を立て、今年4月に70本目の植樹を成し遂げました。

出口社長は「今後も創業80周年に向けた社会貢献の取り組みを考えていきたい」と話し、大野町長は「10年間にわたり試行錯誤しながら植樹をしていただいた。大切にしていきたい」と話しました。



ファイターズスペシャルアドバイザーの田中賢介氏による講演



中札内村北の大地ビエンナーレ 全国絵画公募作品展新ひだか展

町文化団体協議会(市毛満会長)主催の『芸術鑑賞事業中札内村北の大地ビエンナーレ全国絵画公募作品展新ひだか展』が8月27日から9月13日にかけて公民館と総合市民センターで開かれました。

当町と十勝管内中札内村は、道道静内中札内線の道路がきっかけで文化交流が始まり、作品展は今回で3回目となります。

作品展では、平成27年まで同村で開催された全国絵画公募展での歴代入賞作品の中から33点が展示され、会場を訪れた方は、芸術作品を間近にし、興味深く鑑賞していました。

ペテガリ岳の登山道など 環境整備ボランティア活動

環境整備ボランティア活動

国立公園化が計画されている日高山脈の中央部に位置するペテガリ岳の登山道などの環境整備を行うボランティア活動が9月3日から4日にかけて行われました。

静内山岳会や関係団体のほか、全道各地から参加したボランティアなど27人が参加し、登山道のササ刈りやペテガリ山荘の清掃、暖房用のまき割りなどが行われました。

参加者は、アップダウンが激しい登山道を草刈り機や燃料などの重い荷物を分担して運びササ刈りをするなど、山頂を目指す登山者が安全に気持ちよく登れるよう汗を流しました。



学校給食に北大短角牛を使った プルコギ丼が登場

新型コロナウイルスの影響により地場産食材の消費が減る中、生産者の支援と食育推進のため、8月26日に町内の小・中学校の給食に、町内産ブランド米の万馬券と北大静内研究牧場で育てた北大短角牛を使ったプルコギ丼のほか、ミニトマトの太陽の暈が提供されました。

3月までに9回行われるこの取り組みは、みついし牛を使った肉うどんなどが予定されています。

児童らは「お肉が軟らかくて高級な味がした」と笑顔で話し、北大静内研究牧場の河合正人牧場長は「食に興味を持ってもらうきっかけになればうれしい」と話しました。





農家を巡回し意見交換 営農の現状や現場の声を聴く

町は、農家の営農状況や現場の声を直接聴き、今後の農業施策などの参考にする『農家巡回』を9月5日に町内で実施しました。

初めての試みとなる今回は、作物別（ミニトマト、花き、水稲、軽種馬、酪農、肉牛）に個々の農家を巡回し、今年の生育状況の確認のほか、コロナ禍による需要の減少や円安による飼料や肥料、燃料、資材などの価格高騰の影響を強く受けている営が圧迫されている現状などを聴き取り、意見を交換しました。

新ひだか沖 秋サケ漁 スタート

日高沿岸の秋サケ漁が9月1日に解禁され、町内の漁港では、大型定置網漁船による秋サケ漁がスタートしました。

翌日、網入れしていた定置網の引き上げ作業が行われ、銀色に輝く秋サケや、船上で活めした6キから10キのブリなどが水揚げされました。

漁師さんは「日高沿岸の過去の歴史的な不良に比べると、まずまずの滑り出し」と話しました。

秋サケが道東沖からえりも岬を経由して新ひだか沖に来遊し、本格的な漁を迎えるのは、水温が下がり始める10月上旬から中旬ころ——、豊漁が期待されます。



ミニトマトの栽培や収穫を体験 しんひだかキッズファーマーズ

6月から始まった町と教育委員会主催の『しんひだかキッズファーマーズ』の6回目が9月10日に静内ハウス団地で開かれ、参加した児童14人がミニトマトの収穫を体験しました。

この事業は、地元の農業のことを知ってもらうため、町内の小学3年生

から6年生の19人がハウスの研修生の指導のもと、定植や吊り上げ、わき芽取りなど、実際に農家さんが行っている作業を学びました。

参加者は「苗植えは大変だったけど収穫は楽しかった」と笑顔で話しました。



6月25日 第1回目 苗を見学



7月16日 第2回目 定植作業



9月10日 第6回目 収穫作業